



2008.1

69



特集 第19回 長崎県民文化祭

芸術文化の祭典



長崎県の遺産が語りかけてくる歴史の物語

長崎県企画「ながさき歴史発見・発信プロジェクト」



旅する長崎学

たびなが第2弾!
近代化
ものがたり編

県では、長崎を舞台にした歴史の物語を描き出すガイドブック「旅する長崎学」を発刊し、本県の多彩で特色ある歴史・文化の価値や魅力をPRしています。

お待ちかね! 待望の「新」シリーズ! いよいよスタート!

専門的で難しい歴史書ではなく、通り一遍の観光案内でもない、**長崎の旅へと誘う新しいタイプの歴史ガイドブック**。
明治維新後に急速な近代化を遂げる日本の原動力となった長崎県の姿にクローズアップする「近代化ものがたり編」は全4巻を予定。このたび、その第1号となる「長崎は「知の都」だった—近代化の学校 西から東へ送った風—」が発売されました。近代夜明け前の長崎遊学者群像、日本近代化の羅針盤となった3つの伝習所、情報化社会の礎を築いた長崎の先賢たちなどが登場します。続刊も順次発行していきますので、どうぞ楽しみに!

新シリーズも見どころ・読みどころ満載!

歴史ストーリーの中に長崎県の魅力が際立つ!

写真満載のビジュアル編集でわかりやすさ抜群!

コンパクトサイズで地図や施設ガイドも充実!



近代化ものがたり I

7 長崎は「知の都」だった

—近代化の学校 西から東へ送った風—

■A5判 ■64ページ ■600円(税込)

NEW

- 「予告」続編も順次発行
- 8 近代化ものがたりII
長崎は野外産業博物館
—近代化遺産の宝庫を歩く—
 - 9 近代化ものがたりIII
東洋と西洋が出会った長崎居留地
—長崎らしさを生んだ異文化交流—
 - 10 近代化ものがたりIV
レトロ長崎オシャレ発信地
—大正ロマン・昭和モダンを旅する—

そうご期待!

ただいま好評発売中! キリシタン文化編

- 1 長崎で「ザビエル」を探す
- 2 長崎発ローマ行き、天正の旅
- 3 26聖人殉教、島原の乱から鎖国へ
- 4 「マリア像」が見た奇跡の長崎
- 5 教会と学校が長崎の歴史を語る
- 6 総集編 キリシタン文化の旅 長崎へのいざない

「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」が世界遺産の候補となって、ますます注目度アップの「キリシタン文化編」は全6巻!
県内各地でいまも息づく数々の教会や史跡が語りかけてくる歴史をひもときながら、思わず心癒される旅に出かけたいくなるオススメのシリーズです。

お求めは主要書店にて!



■A5判
■各号600円(税込)

思わず旅したくなる歴史ガイドブック

●お問い合わせ先: 長崎県文化振興課
TEL.095-895-2764

たびなが 長崎学

たびなが 検索
◎パソコン ▶▶▶ <http://tabinaga.jp>
長崎県の歴史と旅の遊学サイト ◎モバイル ▶▶▶ <http://tabinaga.jp/m>



02 特集 第19回長崎県民文化祭 ◎萬狂言 in しまばら ◎Kotist 宮西希コンサート ◎石見神楽の世界



05 一支国芸術祭 和太鼓フェスティバル

壱岐市文化団体協議会会長 江川 漣

06 第6回長崎県ライトミュージックフェスティバル

08 第52回長崎県美術展覧会公募展

09 県民文化祭共催事業

◎第19回長崎県人形劇まつり

◎第47回長崎県民演劇祭

◎第10回長崎県子どもと文化フェスティバル「なにかやろうよ! 2007」

12 ながさき音楽祭2007

◎ポエ・ファミリーコンサート

◎樺島しおさいコンサート

◎ほろ酔い気分で蔵シック

◎美術館室内楽コンサート

◎ヤングマーチングパレード

◎諫響金管・秋の街角コンサート

17 クレシェンド・シーハット大村だより

◎三位一体から生まれる感動

18 【長崎歴史文化博物館】こどものひろば

19 【長崎県美術館】アートクラブ

20 アルカス通信

◎第36回長崎県新人演奏会“公開オーディション”のお知らせ



のぼる、新しい閑静な日の出を祝福。
ここは、美しい感性に目ざめた長崎。
今年も、嬉しい歓声に出会いの予感。



心に響いた箏の美しい音色

雲仙市教育委員会 生涯学習課 主事 林田 慎也

コンサートでは、宮西さんが奏でる箏の美しく心に響く音色と、現代風な演奏に来場者は魅了されました。なかでも、リクエストに応え、即興演奏を行う「KOTOっちゃうぞ」のコーナーでは、「ラジオ体操第二」や、「涙そうそう」など来場者によるリクエストを即興で演奏され、何でも即興で弾くことができることに驚きと感動を覚え、ジャンルの幅の広さに驚かされました。

後半では、箏とピアノ、ウッドベース（洋楽器）とのコラボレーションもあり、「箏」のイメージを覆えされました。

「箏」の無限の可能性を感じることができ、また、宮西さんのお人柄の良さが伝わってくる素晴らしいコンサートでした。

Unzen

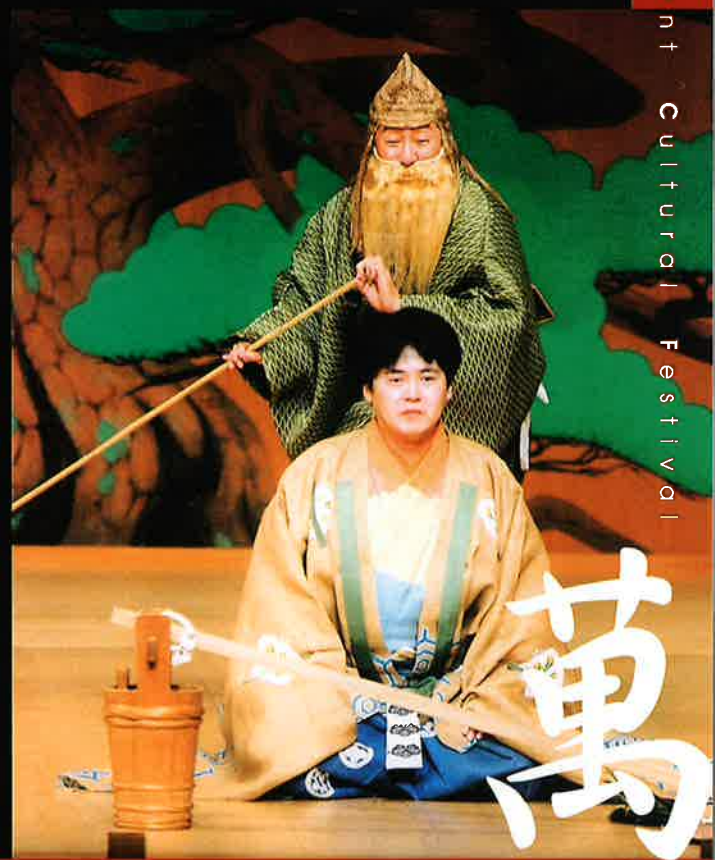
当日は予想を上回る約1200人の超満員の観客で会場は熱気に包まれていました。江戸時代より能楽が武士や庶民にまでも親しまれ、今も盛んに伝統の継承を行なっている島原で、その城下町ならではの歴史や文化を子ども達に継承するため、島原市教育委員会では和泉流狂言師の野村万蔵さんを講師に迎え「島原子ども狂言ワークショップ」を毎年開催しています。

今回はワークショップ参加の島原の小中学生が、野村万蔵さんと、その師匠の人間国宝・野村萬さんの舞台の前座を立派に努め、開演前に先生方と記念撮影、そして励ましのお言葉をいただき、一生の思い出になる素晴らしい体験をさせていただきました。これまでの取り組みのご縁もあり、今回は企画の段階から、要望を先生方に伝え、ご相談しながら島原公演独自のプログラムを作成し、上演していただきました。初めて鑑賞する方でもわかりやすく、また愛

迫力ある狂言の世界に引き込まれて

萬狂言 in しまばら実行委員会 北田 貴子

Shimabara



好家の方でも見応えのある、スペシャルプログラムの上演の実現となり、大変贅沢な内容の一夜となりました。第一部では、わかりやすい狂言と能楽の解説、「島原子ども狂言」の子ども達の小謡の発表、和楽器の紹介などを行い、能楽の世界をよりわかりやすく紹介し、大変好評でした。また第二部では、狂言の大曲と言われる「三番叟」の五穀豊穡を祈願する躍動的で荘重な舞を野村万蔵さんが舞われ、和泉流狂言「舟渡鯉」では、人間国宝の野村萬さんとご子息

の九代目当主の野村万蔵さんらが演じられる、格調溢れる一瞬も見逃せないような素晴らしい芸に観客は魅せられ、会場はははのとした狂言の笑いの世界に包まれました。子ども達、そして親子でこの一流の日本の伝統芸能を鑑賞していただきたいという実行委員会の思いのなか、たくさん的小学生や中高生も来場し、迫力のある狂言の世界に引き込まれていました。地域の歴史に根ざした企画を、一流の先生方のご理解の下で実現し、その素晴らしい芸の持つ豊かな文化の空気感を、地域の方々の皆さんと共に体験できたことは、これからの島原の豊かな文化力を育む栄養となり、日本の伝統文化と郷土文化の再認識をする素晴らしい機会になったと思います。

萬狂言

しまの芸術祭 | 和太鼓フェスティバル

一支国芸術祭

11月23日「一支国芸術祭」和太鼓フェスティバルが盛大に開催されました。



杵岐には、数組の和太鼓のグループがあります。それぞれの個性があり、いろいろな場所での活躍を目にする事ができます。杵岐市文化団体協議会は韓国ソウル市の国立国学院との間で国際文化交流を行っており、昨年ソウル市内の国立劇場に於いて風舞組による杵州荒海太鼓の公演を行ったのですが、最後は舞台と会場が一つになって盛り上がり大変好評でした。

このように和太鼓の活動が盛んな杵岐で、今回開催された「一支国芸術祭」は、風舞組ジュニア(小学生)の

W A D A I K O F e s t i v a l i n I K I

素晴らしい一支国芸術祭でした

杵岐市文化団体協議会会長 江川 漣

演奏に始まり、くれない太鼓「鼓若」、杵岐商業高等学校「杵州荒海太鼓部」と続いた前半は地元グループの演奏で、その素晴らしい演奏に会場は拍手の渦に包まれました。

杵岐の太鼓のどのグループの演奏もなかなかのものでしたが、本物はまた格別でした。ZIPPANGの演奏が始まると場内はどよめき、突然と見入るばかりでした。見事な捌き、エネルギー溢れる躍動美、リズムカルなそして爆発的な鼓音が会場を揺るがす、速く、激しく、太鼓の旋律がこんなに心に響くものかと感動さえ覚えたものです。和太鼓とトロンボーンとの共演や、トランペット等管楽器との調和のとれた合奏、太鼓の持つ奥の深さを思い知らされました。

総ての演奏が終わってもまだ余韻が残る、場内のアンコールに答えて再登場、舞台と会場が一つに成り大きなハート型の輪が広がりました。大きな大きな和に成りました。

後日「素晴らしい、楽しかった、心から感動しました」という声を多くの方々にいただき、県内すべての地域に本物の芸術をという県の企画に心より感謝する次第であります。私達も心に芸術を育み、杵州太鼓のグループもこれを機に益々精進を重ね杵岐の太鼓ここにありと誇れる日が来る事を期待出来る素晴らしい一支国芸術祭でした。ありがとうございました。



◎初心者クラス



◎経験者クラス



◎かつぎ桶太鼓クラス

■公演の翌日(11月24日)に開催されたワークショップの様子

秋も深まり山々も色づき始めた時期に、芸術の秋を彩る県民文化祭が開催されましたことは、大変喜ばしく感謝申し上げます。NIB長崎国際テレビのアナウンサー島田啓子さんの進行により、「石見神楽の世界」第一部「塵輪(じんりん)」が始まりました。オープニングに相応しく大悪鬼を退治するシーンは圧巻でした。つづいて、恵比須様が磯辺で釣りをしてる姿を舞った「恵比須(えびす)」の演目では、一粒で寿命が延びるという「あめ」を会場に撒かれました。お客様が、われ先にと「あめ」を拾っている姿は大変興味深いものがありました。続いての演目は、有明地方に伝わる鍋島藩の「化け猫騒動」を神楽化した「有明(ありあけ)」が披露されました。重松進左衛門が山鳥の宝剣、千布本右衛門が、雀麟の剛鎧を操り激戦の末見事退治する演舞は、娘の姿から化け猫への移り変わりなど観客の目は釘付けでした。休憩のち、ステージでワークショップを開催いたしました。演舞で使用する衣装やお面の説明後、会場にお越しのお客様2名

(大人1名子ども1名)に試着して頂きました。また、最後の演目「大蛇(おろち)」で使用される大蛇が舞台袖から登場！体長が約18mある大蛇を、アメリカ人のお客様が体験いたしました。貴重な経験だったと思います。最後の演目「大蛇(おろち)」は、須佐之男命が嘆き悲しむ老夫婦と稲田姫に出会い理由を尋ねると、八岐の大蛇が毎年現れ、既に七人の娘が攫われ、残ったこの稲田姫もやがてその大蛇に攫われてしまうと言います。一計を案じた須佐之男命は、種々の木の実で醸した毒酒を飲ませ、酔ったところを退治するストーリーですが、八体の八岐の大蛇がステージいっぱいに広がり、八岐の大蛇を退治する場面は迫力満点で盛大なフィナーレを迎えました。この日ありえコレジヨホールは、まさに「悠久の時を越え神話の世界」へタイムスリップしたように、神秘的な空間が広がっていました。

最後に、長崎県民文化祭を開催するにあたり、長崎県及びNIB長崎国際テレビ等関係者の方々に深く感謝申し上げます。

まさに「悠久の時を越えた神話の世界」へ

南島原市教育委員会生涯学習課 永吉 宏大

Minami Shimabara

創成館高校音楽部

出演者 04



【そうせいかんこうこうおんがくぶ】

今回はライトミュージックフェスティバルに出演させて頂き、誠にありがとうございました。一緒に出演された皆さんは本当にハイレベルで、その中で演奏できた事を誇りに思います。私達にとって、とても良い刺激になりました。これからいろいろなステージに積極的に参加し、「女子高生バンド」から「実力派女子高生バンド」を目指していきたいと思ひます。皆様どうぞ応援よろしくお願い致します。最後にもう一度、主催の方々、スタッフの皆様、本当にありがとうございました!!

MONDAY BLUE

出演者 03



【マンデイ ブルー】

ライブ終了後にBAHOからのレクチャーがあり、音楽に進んだ息子さんのことを尋ねたら「何も強要しないこと」という子育て論を聴きました。また、「俺が審査員長だったから、グランプリあげてたね。」という最高の言葉をもらったので、この上ない喜びをかみしめています。あと「よく練れた音を出していたね。」というコメントもいただきました。グランプリは残念ながら取れませんでした。ゲストのBAHO(Charと石田長生のユニット)の演奏という話が聴けて大満足です。

Candy Box

出演者 02



【キャンディ ボックス】

今回、ライトミュージックフェスティバルに参加させて頂いて、二人ともいろいろと勉強させていただきました。大きなステージにとても緊張しましたが、楽しむ事もできました。これからもっと頑張っていきたい…。もっともっと頑張らないといけないって改めて思う事ができました。この経験をバネに一歩ずつちょっとずつ大きく成長していきたいです。ありがとうございます。現在は福岡を中心に活動していますが、また長崎でライブする際はよろしくお願いします。

SHOCK THE RIPPER

出演者 08



【ショック ザ リッパー】

どうもこんにちは! Shock the Ripperです。とにかくロックすることしか能の無いおバカの集まりですが、ライトミュージックフェスティバルに参加することができて、メンバー一同大変うれしく思っています。僕は佐世保を拠点に福岡などでもライブをしていますので、HR、R&B、ブルース、ファンク、パンクなんかが大好きな人、どうぞ気軽に遊びに来て下さい!! 最後に、ライブを観てくれたお客さん、審査員の皆さん、スタッフさん、共演者の皆さん、そして、Charさんと石田長生さん、本当にありがとうございました!

HASBAND

出演者 06



【ハズバンド】

何と言っても、あこがれのCharさんに会えて、その演奏を間近で聴くことができたことや、握手ができたことなどは、まさに夢のような体験でした。口では言い表せないくらい幸せを感じ、バンド活動を続けていて、本当に良かったと心から思いました。また、ほかのバンドの皆さんとの競演もとても良いひとときでした。長崎にもいろいろな才能を持った素晴らしいミュージシャンがたくさんいることを知り、同じステージに立てたことをうれしく思いました。でも、何と言っても一番うれしかったのは、教え子のグランプリ獲得でした。

ICHIDAサミット

出演者 05



【イチダ サミット】

先ずはじめに会場に来てくださったお客さんとスタッフの方々に感謝したいと思ひます。今回新たに結成したバンドで出演できた事にとても誇りを持っています。長崎から世界に通用するようなバンドを目指し、日々精進したいと思ひています。これからも応援よろしくお願い致します。



華唄泥棒 [ハナウタドロボウ]

出演者 01



はじめまして!!華唄泥棒です!!グランプリを受賞することができ、とてもとても嬉しいです。実は私たち、ライトミュージックには過去2度応募していたのですがなかなか上手くはいかず、今回初めて本選に出場できると連絡を受けて、2人共テンション上がりました。そして2曲という持ち時間でどれだけ私たち華唄泥棒を伝える事ができるのか考え本選に挑みました。上手く伝えることができたかどうかはわかりませんが、今回グランプリという形で手にする事ができ、大きな自信につながりました。そして、応援して頂いたたくさんの方々にも一番良い結果で報告ができました。まだまだ課題はたくさんありますが、Bahoさんから頂いた貴重なアドバイス等もしっかり意識して、これからも精力的に活動していきたいと思ひます。



華唄泥棒のプロフィール

あや ボーカル、ジャンベ あつみ コーラス、ギター

2003年11月 高校2年の秋、華唄泥棒結成
2004年6月 高校生バンドコンテスト九州大会、パフォーマンス賞受賞
2005年4月 nccとっておきちゃんぽん Pick Up Artist 公開オーディション、準グランプリ受賞
8月 平和の灯コンサート参加
2006年4月~10月 さく博音楽イベント参加
2007年3月 1stCD 発売

11月 ライトミュージックフェスティバル、グランプリ受賞
11月 FM FESTIVAL RADIO AWARD IN JAPAN LIFE MUSIC 2007 BEST INDIES OF LIFE 部門 FM長崎代表
2004年よりプレス9九州沖縄音楽祭出場
2004年 JAMIN 賞受賞
2005年 弦洋会特別賞受賞
2007年 最優秀賞受賞



sin-san

出演者 07



【シンサン】

こんにちは。sin-sanです。ライトミュージック・フェスティバルでは「BAHO 特別賞」という名誉ある賞を頂きとても光栄です。これも見に来て頂いた皆さん!! 及び関係者・スタッフの皆様のお陰で頂いた賞なんだと思ひます。僕の中でとても貴重な経験になりました。五体満足に身体が動く幸せを感じ、これからも音楽道を、自分の道を歩んでいけたらと思ひます。音楽という奇跡を信じて。ありがとうございました。

Nagasaki 第6回長崎県 Light Music ライトミュージック Festival フェスティバル

開催日=平成19年11月11日(日)
開催場所=諫早文化会館

「長崎県ライトミュージックフェスティバル」は、県民総参加による新たな文化の創造を目指す「長崎県民文化祭」の県主催事業のひとつです。ポピュラーやロック等幅広い音楽分野の音楽祭を開催し、県内演奏家に発表機会を提供するとともに世代間、団体間の交流を進め、県民の皆様に鑑賞の機会を提供することを目的に、平成14年度から県と開催地の市町が協力して開催しています。

出演者

- >> 華唄泥棒(ハナウタドロボウ)
- >> Candy Box(キャンディ ボックス)
- >> MONDAY BLUE(マンデイ ブルー)
- >> 創成館高校音楽部
- >> ICHIDA サミット(イチダ サミット)
- >> HASBAND(ハズバンド)
- >> sin-san(シンサン)
- >> SHOCK THE RIPPER(ショック ザ リッパー)
- オープニングゲスト
- >> THE CHU CHU CHUTLES(ザ・チューチューチュールズ)
- スペシャルゲスト
- >> BAHO(パホ) [Charと石田長生]

審査員

- 熊原淳一郎
(BMG JAPAN 国内制作本部宣伝部)
- 石井 寿典
(ラズベリーマーケット代表取締役社長)
- 原田 裕介
(原田楽器代表取締役)
- 深堀辰之介
(県文化振興課長)



Opening Guest THE CHU CHU CHUTLES

オープニングゲスト

ザ・チューチューチュールズ
◎昨年度グランプリ受賞



Special Guest BAHO

スペシャルゲスト

Char(竹中尚人)と石田長生
パホ



子どもたちの心と夢と希望を育む人形劇

第19回「長崎県人形劇まつり」は十一月二十三日(金)長与町老人福祉センターでの開催となりました。県内で活動しているアマチュア人形劇団が毎年合同で人形劇まつりを開催し、人形劇を通して子どもたちの心に夢と希望を育みながら、豊かな心の育成に取り組んでいます。長与町での開催は初演という事もあり、チラシ配布、手続き等、当町の生涯学習課のご支援をいただきました。

前日に看板を設置し、当日早朝より道具の搬入、会場整備、舞台設営が出来ると通し稽古、けこみ裏に待機する頃には、会場は家族連れでいっぱいになりました。演目は、それぞれの持ち味を生かし、幕間は手遊びをしたり、人気者のみかんちゃんがつなぎます。

プログラム①番はキャロット劇団の「かえると蛇蛇」長崎の龍をモチーフに五匹のかえるが登場する創作劇で今年八月、沖縄大会で「面白かつ

た」と好評でした。②番目はどんぐり座の「かさこ地蔵」日本の昔話を丁寧に組み立て、優しいおじいさんの心を伝えていました。③番目はなづみ座の「赤ずきんちゃん」かわいい女の子が怖いオオカミと出遭うお話は教訓としての効果をねらいます。④番目はいずみ座の「わらしべ長者」心のやさしい若者が小さな親切から大きな幸せをつかむ物語です。⑤番目はゴスモスの「ヘンゼルとグレーテル」兄妹がお菓子の家の魔女につかまり、力を合せて立ち向かうお話です。

フィナーレは登場人物の人形たちが子どもたちとふれ合い、お別れをします。子どもたちはうれしそうに人形と握手して「また来てね」と帰っていきました。

人形劇サークル協議会は、地域の子どもたちとの出会いを大切にします。人形劇を通して伝えたい事がいっぱいあるのです。子どもたちの笑顔が私たちの喜びです。公演の依頼があればどこへでも出掛けます。

長崎県人形劇サークル協議会 会長 藤本 八重子

子どもたちの笑顔が大好きです

The 52nd
Nagasaki
Art
Exhibition

第52回長崎県美術展覧会公募展

第52回県展公募展は、9月15日から10月28日まで長崎・佐世保・諫早の3会場で本展が順次開催され、11月には新上五島町、南島原市、東彼杵町で移動展が開催された。

今年は、日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真、デザインの7部門に1,918点の出品があり、西望平和賞に滝田泰博氏(洋画)、洋画の進展並びに新人の育成と奨励を目的とした野口彌太郎賞に辻本健輝氏(洋画)が選ばれた。なお、今年から県知事賞受賞者に賞金が授与された。

また、長崎会場で昨年に引き続き実施したワークショップ(7部門に小・中学生109名が参加)、オークション(本県在住の作家61名が提供)事業に多くの県民が参加して楽しんだ。

西望平和賞



◎部門 洋画 ◎題名 竹林 ◎氏名 滝田 泰博
※洋画部門の県知事賞

野口彌太郎賞



◎部門 洋画 ◎題名 律動 ◎氏名 辻本 健輝

県知事賞受賞者

書 江上 邦子

日本画 藤浪 契子
彫刻 吉岡 萌久美
写真 中村 正幸

洋画 滝田 泰博
工芸 吉澤 秀幸
デザイン 太田 旭

移動展 各会場とも約100点の展示 ◎ワークショップ後の作品も展示

新上五島町会場

11月8日(木)~11日(日)の4日間、新上五島町石油備蓄記念会館で開催。ワークショップは、木下伸弘氏の指導で、中・高校生11名がデザイン(マッピング)でブックカバーを作成した。



南島原市会場

11月15日(木)~18日(日)の4日間、南島原市原城文化センターで開催。ワークショップは、前波政昭氏ほかの指導で、親子10名が外で撮影した写真をパソコンに取り込んだり、撮影の基本を学んだ。



東彼杵町会場

11月22日(木)~25日(日)の4日間、東彼杵町歴史民俗資料館で開催。ワークショップは、並川一巳氏、濱井隆氏の指導で、小学生17名が油絵に挑戦した。





次は君の番だ!



新しい”ドラマ”が始まる・・・

今年で10回目を迎えるこの催し、「県フェス」として親しまれ、ずいぶん浸透したものとなりました。長崎に「子ども劇場」が生まれてちょうど40年のお祝いとも重なり、限られたグループばかりでなく、「もともと各地域から」「大人も子どもも一緒に」「市民会館のステージに立つとうよ!」というこで、1年かけて準備をしてきました。最初は、「市民会館の大きなステージとキャパに見合うものができるだろうか」と不安もありましたが、結果は、150名近くにもなる出演者数となり、各地各グループとも、それは趣向を凝らした内容で、見栄え見応え十分のステージとなりました。

第1部、土井首地区からは、りっぱな大漁旗とともに勇壮な「ソーラン節」、小ヶ倉地区は艶やかに「フランメンコ」、香焼地区はかのみなさんによる「フラダンス」も衣装もバッチリ「アローハ〜」、子どもたち自身の創作による「劇」は、田上地区小学

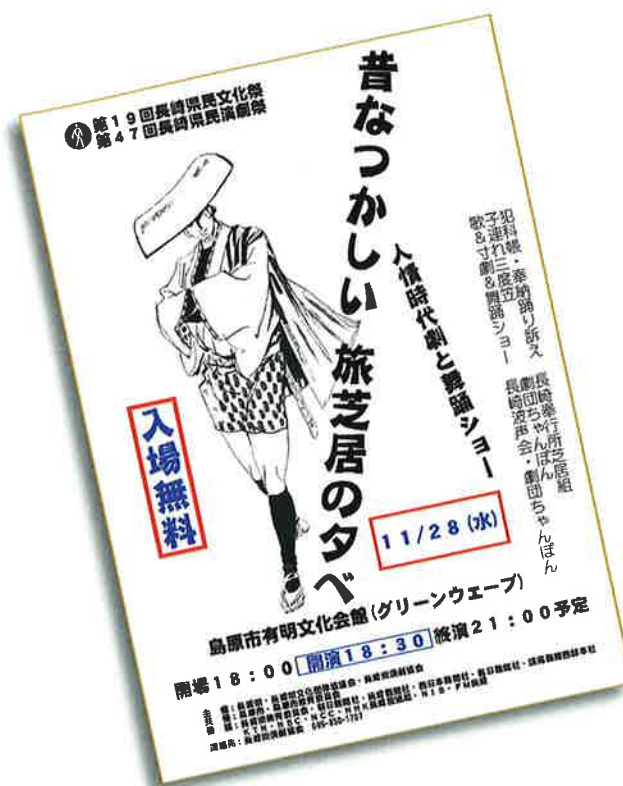
生グループと、東地区中高生グループ、東長崎地区と諫早子ども劇場からは、楽しい歌に合わせての「踊り」、幕間の客席との「遊びコーナー」も北部地区合同で、楽しいものでした。

そして第2部は、青年たちの「バンド演奏」と「ダンスダンスダンス」。10〜20代を中心とした若者たちのエネルギーあふれるステージとなりました。「ダンス」では、今回のフェスにむけて結成された「HAPPY∞」のメンバーも、初のステージで練習の成果を精一杯披露していました。

まさにタイトル通り「なにかやろうよ!」と、子どもたち大人たちが思いを寄せ合い、練習を重ね、そしてステージへ。その一つ一つの過程がまさに「ドラマ」であり、かけがえのない文化体験となりました。最後にステージから「次は君の番だ!」と客席によびかけて「2007」の幕は降りました。今からまた来年が待ち遠しくなりました。

「次は君の番だ!」

長崎県子ども劇場連絡会事務局長 中村 結花



有 明町で初めての演劇祭開催の運びとなったのは、有明町の出身者や出演者の親類縁者が多いという事と、グリーンウェイブの会館の素晴らしさで早くから決定が決まりましたが、出演団体が多い長崎市から距離があり、しかも平日の夜の開催という事で、出演団体は三団体となりました。

開演の前日、演劇協会会長の緊急入院があり、会長が主役の長崎奉行所芝居組は大慌て。急遽、大学生が代役として出演する事となり、その大学生の代役もたて、無事に乗り越えました。

開演前に、出演者全員で衣装を着けてのお出迎え、又、開演まで役者が客席で雑談して、「昔なつかしい旅芝居のうべ」のキャッチフレーズどおり、始まる前から客席は大賑わい。その成果があり、芝居の最中も拍手あり笑いあり涙ありと、約三百四十人の観客には、最後まで鑑賞してもらいました。地元のみならず、二回目の出演の長崎奉行所芝居組は代役にもかかわらず無事幕開

けの大役をこなし、演劇祭常連の劇団ちゃんぽんは、小学生から六十代までの幅広い出演者で笑いあり涙ありの芝居で会場を沸かせ、初めての出演の長崎波声会は「赤垣源藏徳利の別れ」で、大きな拍手が何回も会場に鳴り響きました。

今回の演劇祭は二つの芝居に出演予定だった会長の緊急入院で、代役を立てる事態となり、演劇祭全体に緊張感が漂って、一人一人が気迫のこもった芝居ができたように思いました。会長が決めた「昔なつかしい旅芝居のうべ」は玄関で、一人一人握手して、声を掛け合った最後のお見送りでも評判がよく、笑顔の中で終了することができました。

グリーンウェイブの職員の方々の好意的なお世話にも感謝します。最後に、会長も無事退院でき、すべて順調に終了しました。来年度の開催予定地は諫早市です。



一人ひとり、気迫のこもった芝居・・・



9月30日 波佐見町 今里酒造

「ほろ酔い気分で蔵シック」は、その名のとおり酒蔵でお酒とともに音楽を気軽に楽しむしようと贅沢な大人のための企画であった。ながさき音楽祭の中でもいち早く入場券が完売し、嬉しい悲鳴を上げるほどの大盛況。

先ず初日は、9月30日に波佐見町の今里酒造での「シネマで蔵シック」。開演前に用意されたお酒とお料理をまぜ味わい、ほろ酔い気分になったところで演奏会がスタート。会場は国の登録有形文化財である酒蔵の日本酒タンクの目前で、このタンクが音の反響板や

映像スクリーンとなり、音楽ホールとは違う何とも言えない空間を創り出していた。演奏曲は1930年代から50年代にかけての映画音楽の名曲特集。懐かしく心地よい音楽にノスタルジックな映像の数々が投影され、場内はしつとりと静かな時間が流れた。この波佐見会場では、この演奏会のためにデザインされたお洒落なラベル付きのながさき音楽祭記念限定酒が来場者に記念品としてプレゼントされた。

次に中日は、10月8日に南島原市の吉田屋での「木管で蔵シック」。当日は超満員で会場内が少し蒸し暑い中での開催。こちらは演奏を聴きながらお酒と地元特産品が味わえた。

演奏会は酒蔵にグランドピアノを持ち込んだの本格的なコンサート。クラシック音楽はもちろんポップスや秋を歌った童謡も演奏され音楽とお酒に酔うひと時であった。休憩時間には、温かい手作りの粕汁が振舞われたり、テーブルでいただいたお酒や地元の特産品の買い物を楽しんだり。終演後にはお楽しみ抽選会が始まり、景品として出演者の写真入りラベルの限定ボトル



ほろ酔い気分で蔵シック

も用意され会場は大いに盛り上がった。

最後の千秋楽は、10月14日に江迎町の潜龍酒造での「優雅に蔵シック」。開演まで会場前の広場に用意されたお酒と地元の方々の手料理を堪能。会場は江迎本陣跡の隣にある300年余りの歴史を持つ「もと蔵」の2階の板の間で腰をおろしてゆつたりと音楽を楽しむとても趣のある空間。オペラのアリアを中心にクラシックの名曲からビートルズや美空ひばりまで幅広いジャンルの音楽が演奏され、お客様もゆったりと聴き入っていた。こちらも休憩中に



10月8日 南島原市 吉田屋



10月14日 江迎町 潜龍酒造

はお酒の試飲と買い物で販売所は賑やかに。終演後はお楽しみ抽選会で盛り上がり、帰りの会場出口には、竹筒で作られた照明が幻想的な雰囲気を出し、来場者は演奏会の余韻に浸りながら帰路についた。

3会場ともそれぞれ素晴らしい演奏と、ホールとは違う酒蔵のあたたかな雰囲気、そして演奏会をさらに盛り上げたのは、それぞれの独自企画による記念ボトルや料理、会場の雰囲気作りなど各会場の特色がよく現れたとても楽しく贅沢な演奏会であった。

ポエ・ファミリーコンサート



9月21日南島原市ありえコレジョホールにおいて木管アンサンブル・ポエによる「ポエ・ファミリーコンサート」が開催されました。結成17年目のポエにとって結成当時に旧加津佐町で10年間続けたクリスマスコンサートはとも思い出深く、今回のコンサートはポエにとつては里帰りコンサートのような気持ちで臨まれたコンサート。

当日は、コンサートの前に南島原市加津佐町にある「乳が浦老人ホーム」に向かい、アウトリーチコンサート（出前コンサート）。ポエらしいクラシックに童謡、そして美空ひばりや村田英雄の歌が披露されるとお爺さんもお婆さんも一緒に口ずさみ、水戸黄門や町娘の衣装での掛け合いには手を叩いて大笑い。ほんの1時間という短い時間でありましたが、会場全体に笑顔が溢れ、心温まる素敵なミニコンサートでした。

さあ、次はいよいよコンサート本番。会場には小さな子供から昔からポエを聴いて応援している方々まで幅広い年齢層のお客様。

ステージは、クラシック音楽から映画音楽やポップスまで4人の息のあった演奏と歌声にうっとり聴き入り。これまた息の合った掛け合いの漫才のようなパフォーマンスには会場内は大爆笑。子供たちとハイタッチしたり客席で演奏したりお客様との触れ合いをとても大切にしていたポエのメンバー。出演者も会場のお客様もみんな一緒に楽しみ、心温まったコンサートでした。

樺島しおさいコンサート

長崎市最南端に位置する全校児童が26名の長崎市立樺島小学校。美しい海の近くにあるこの小さな学校で9月28日に長崎大学の学生と教員、そして樺島小学校の子供達による「樺島しおさいコンサート」が開かれました。

コンサートが始まるのが待ち切れない子供達は、出演者が到着した途端玄関に飛び出してきて「こんにちは」と元気なあいさつでお出迎え。開演時刻になると会場には子供達と先生、そして地域の方々にも来場いただいたのですが、予想を大幅に上回る100名以上の観客に慌てて椅子を倉庫から運び出すほどでした。

コンサートでは、長崎大学の出演者の演奏による「ともだち讃歌」が始まると子供達も一緒に可愛い振りつきで元気な歌声を披露。長崎大学の出演者の演奏には静かに聴き入り、楽器紹介の時には身を乗り出して楽器を見つめる子供達とお客様。樺島小学校の子供達と先生方で結成されている金管バンドと長崎大学の出演者との共演による「ミッキーマウスマーチ」の共演では、子供たちの堂々とした素晴らしい演奏に会場のお客様からも自然と手拍子が湧いてきて、会場全体が子供達の明るく元気なパワーとそれを見守る人々の優しさに包まれたとてもアットホームな雰囲気のコンサートでした。

コンサート終了後は、出演者とすっかり仲良くなった子供たちが別れを惜しみ、「また来てね」と車が見えなくなるまで手を振って見送る姿はとても心温まる光景でした。



美術館室内楽コンサート



1日目。少し肌寒くなってきた季節でもあり、閉館後の夜8時半開演にお客様が集まるだろうか……と心配していましたが、無事にほぼ満席。
まずは、今年の新人演奏会に出演された吉田瞳さんが登場。彼女も、スタッフ同様、1日目ということでやや緊張気味。若い歌い手を応援するお客様の視線が印象的でした。
つぎに、九州を代表する木管演奏者

第二夜 10月13日(土)



が一堂に集まり、ベートーヴェン五重奏曲を演奏。ガラス張りのエントランスに響く、木管の響きは珍しく、とても貴重なコンサート体験ができました。演奏はまさに、ブラボー、素晴らしかったです！
まずは、ソプラノの北川クミさん、吉川友理さんが登場。二人とも、熱心に曲解説を行っていたので、曲の背

第二夜 10月21日(日)

景・情況に思いを馳せることができました。
つぎに、このながさき音楽祭の大山平一郎監督が、奏者として登場。曲は、有名なモーツァルト「フルート四重奏曲第一番」。音楽祭のためにドイツから帰国した佐々静香さんのフルートに聞き惚れ、美術館コンサートはこんなに素晴らしいものができるんだ！という新しい感動が生まれました。

第三夜 10月23日(火)

まずは、今年の新人演奏会に出演された川崎絵里さんが登場。実力に磨きがかかった独唱を楽しめました。
つぎに、大曲のシューマン「ピアノ五重奏曲」は聴き応えたっぷり！林田賢さん、江島有希子さん、加納暁子さん、原口梓さん、大山監督が登場。スタッフは、リハから聴いていたので、とてもお得。本番はリハよりも緊張感の増した演奏で聴いているほうもドキドキするような



テンポ。この緊張感が、生演奏の醍醐味……本当に良かったです。
そして、スペシャルプレゼント！大山監督が、江島有希子さんとともに、アシントンにお応えいただき、美術館室内楽コンサートは素晴らしいフィナーレを飾ることができました。

ながさき音楽祭で一番多く登場した会場をご存知ですか？
そう、長崎での新しいライブスポット「長崎県美術館」です。



新演奏会協会ファンタジーコンサート 10月12日(金)

昼の部、夜の部と2回にわけて、それぞれ違った雰囲気味わうことができました。
まずは、昼の部。「ようこそメルヘンの世界へ」と題し、子ども向けとすることで、スクリーンや打楽器を使うなど飽きさせない工夫があり、演奏曲目も親しみやすい童謡など、わきあいあいと楽しむことができました。

2005年度に結成した「ジュニアオーケストラながさき」の子どもたち、総勢50名が日頃の成果を十分に発揮し、大人顔負けの演奏で、来館者を驚かせました。志岐先生の指揮の下、真剣に演奏する子ども達の表情、その真剣な眼差しが印象的でした。さらに、これまでの美術館コンサートでは、なかった光景も出現。どこを見ても、家族の方が構えるカメラ・カメラ……これまでに一番のビデオカメラの数でした。



ジュニアオーケストラながさきコンサート 10月27日(土)

つぎに、夜の部。こちらは、グッと変って大人向け。「トワイライトセレクション」の言葉どおり、美しい夕暮れから夜にかわる雰囲気たっぷりの中で、ミュージカルやオペラなど、歌が好きな方には



たまらない内容で、本格的な音楽を楽しんでいただけました。



山本森之助
《蒲郡の朝》1926年

長崎県美術館の常設展示室にて、8月28日～11月25日に展示しました。ご覧いただけましたか？

10時～20時まで
営業中！！

長崎県美術館

Nagasaki Prefectural Art Museum

<お問い合わせ>

長崎県美術館



長崎市出島町2番1号 TEL.095-833-2110
http://www.nagasaki-museum.jp



10/20「OMURA 室内合奏団 & 輝きを秘めた星たち」公演

三位一体 から生まれる 感動

© OMURA 室内合奏団



この秋の県内は、長かった残暑そのままに熱く盛り上がりを見せた「ながさき音楽祭2007」の開催で音楽一色に彩られました。OMURA室内合奏団もその中であつて、オーケストラ公演のほか、メンバーによるアンサンブル公演やソロ活動と、多くの出演機会や様々な方との出会い（共演）に恵まれ、とても充実したシーズンを過ごすことができました。中でも、とぎつカナリーホールで開催された「OMURA室内合奏団&輝きを秘めた星たち」では、「長崎県新人演奏会」出身のソリスト9名による5種の楽器と共演するという企画で、それだけでも普段以上にプレッシャーの掛かるステージでしたが、多くのスタッフの支えを頂き、更には会場に詰め掛けた600名を超えるお客様による拍手喝采の中で無事に終演を迎えられたことは、大変有意義な公演となりました。紙面ではありますが、この場を借りまして皆様にお礼を申し上げます。

さて、9月からの約2ヶ月にわたって30公演あまりが開催されたこの音楽祭。多くの「アーティスト」や「スタッフ」が携わり、また、会場には数え切れないほどの「お客様」が来場され、また、その分だけの感動が生まれたことでしょう。それは、本誌前号にあつた堀内教授の音楽祭開催への想いや関係者の熱意が見事に実を結んだ結果として大変喜ばしく思います。

常にホール「スタッフ」の立場で公演制作に携わる者として、この仕事の醍醐味を個人的に述べさせて頂くと、「アーティスト」「スタッフ」「お客様」の3者が出会う瞬間、つまりは公演の幕が開く場面で見られる興奮や感動での充実感にあると言っても過言ではありません。程度はあるにせよ、それらの段取りに「スタッフ」として想いを注ぎ、「お客様」や「アーティスト」がどれだけ満足頂ける内容に近づけるかによって、私たちの得られる充実感の大きさが決まってくると思います。

この音楽祭が主催者をはじめとする参加した皆さんが、楽しかった、満足した、と言える有意義な企画となる為に、次回以降の更なる発展と充実を願いつつ、関係者としても努力してゆきたいと思っています。

財団法人 大村市振興公社 事業部 松田 昇

ヤングマーチングパレード

10月14日(日)佐世保市四カ町アーケード午後1時。松田幼稚園の鼓笛隊30人が演奏を始めると黒山のカメラ隊が一斉に花開く。少し時間をおいて、高校生のマーチングがスタート。まず、今回がパレード初登場の松浦高校、そのあと清峰高校と佐世保商業高校が続き、最後が85人の佐世保東翔高校。計206人のブラスバンドが澁刺と行進。軽快な演奏がアーケードに響き渡り、買い物客らが足を止めて見入っていました。

終着地点の京町公園では、観客のエルに呼んで佐世保東翔が即興でアンコールを2曲演奏してヤンヤの歓声を浴びました。そしてフィナーレは島の瀬の親和銀行本店前での、松浦高校の定点演奏。アーケードデビューとは思えぬ思い切りのいい演奏にこられた、観客からの拍手が続きました。4カ町アーケードが若さに圧倒された午後となりました。

沿道の整理ボランティアの県立大の学生さん、佐世保市と県北振興局の皆さんに大変お世話になりました。



松浦高校 吹奏楽部

Nagasaki Music Festival

諫響金管・秋の街角コンサート



10月14日(日)「諫響金管・秋の街角コンサート」が諫早市本町アーケードのボケットパークで午後1時と3時30分それぞれ1時間ずつ2回開催されました。

諫早交響楽団の11人（トランペット4人、フレンチホルン2人、トロンボーン4人、チューバ1人）が爽やかな秋空の下で演奏されました。

諫早交響楽団は、毎年定期演奏会を開いているため、街角での演奏会を期待して来られた方々やショッピング等で道行く方々が多数足を止めて、耳を傾けておられました。

クラシックの「ロンドンの小景」から始まり、曲が進むにつれ観客も増えて来ました。

このコンサートの中で、楽器を吹いてみよう！というコーナーがあり、4種類の楽器の仕組みと紹介がなされた後、団員の方が観客の中に入り、実際に楽器を吹いてもらいました。当初、楽器に触るのにおどいていたのに、音が出ると得意そうになって、いろいろな楽器を吹いていた子どももいました。大人でも楽器を吹いて音が出ると喜んでいました。

ホールではなく街角でのコンサートでは、こういう触れ合いが出来るといいなと思いました。

その後、演奏曲がクラシックからポップスに代わり、有名な映画音楽や子ども漫画の主題歌等になると、さらに観客が増え、アンコールも出て皆さん喜んでおられました。また、2回とも同じ形で演奏等がされましたが、両方聞かれた方も数人おられました。

諫早交響楽団の皆様、有難うございました。





【長崎県美術館】アートクラブ

小学1年生から6年生までのお友達30名が、アトリエを拠点として美術館内で、時には外にも飛び出し「まなぶ・つくる・深める」を基本テーマに、表現する

子どもアートクラブ

長崎県美術館では、美術作品鑑賞にとどまらず、様々な造形活動を通して、表現する楽しさを体験できる教育普及プログラムを行っています。こうした造形活動の場として美術館を地域に開放することにより、あらゆる年齢層の方々が親しみながらご利用いただける「開かれた美術館」としての環境づくりを進めていきます。

★アトリエで絵を描くのさー！いろいろ作ったりもするんだよ！
★うん！たのしいよ！
★アトリエで絵を描くのさー！いろいろ作ったりもするんだよ！
★うん！たのしいよ！

★アトリエで絵を描くのさー！いろいろ作ったりもするんだよ！
★うん！たのしいよ！
★アトリエで絵を描くのさー！いろいろ作ったりもするんだよ！
★うん！たのしいよ！

★アトリエで絵を描くのさー！いろいろ作ったりもするんだよ！
★うん！たのしいよ！
★アトリエで絵を描くのさー！いろいろ作ったりもするんだよ！
★うん！たのしいよ！



対象 小学生(1～6年)
定員 30名
日時 5月～10月(全8回)
第2・4土曜日
10:00～12:30

親子アートクラブ

「育児が忙しくて、なかなか美術館へ行けない」というお母様方に嬉しい生涯学習の場として人気の親子アートクラブ。

「鑑賞活動」では、美術館にやってくる展覧会で本物の作品をみながら、美術館スタッフやお友達と、自由に意見交換をしていきます。

「表現活動」では、簡単な工作に始まり、鑑賞した展覧会の内容に応じて、写真や陶芸、版画、絵画、立体など、様々なジャンルの制作に取り組みます。後半では、その集大成として「長崎くんち」にちなんだ大型作品を共同制作します。制作してきた作品は全て、美術館エントランスやアトリエで一般公開するとともに、鑑賞会で振り返ります。

学校や家庭とは違う環境で、新しく出会ったお友達と一緒にのびのびと活動してみませんか？

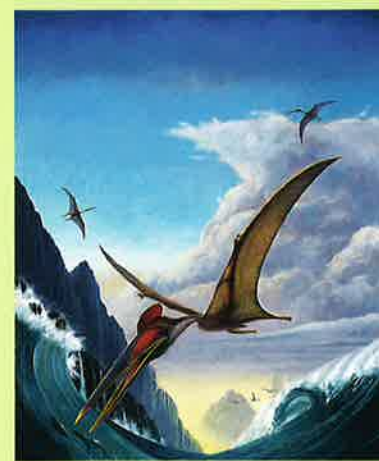
「表現活動」では、簡単な工作に始まり、鑑賞した展覧会の内容に応じて、写真や陶芸、版画、絵画、立体など、様々なジャンルの制作に取り組みます。後半では、その集大成として「長崎くんち」にちなんだ大型作品を共同制作します。制作してきた作品は全て、美術館エントランスやアトリエで一般公開するとともに、鑑賞会で振り返ります。

学校や家庭とは違う環境で、新しく出会ったお友達と一緒にのびのびと活動してみませんか？

美術館に行こう！

「子どもアートクラブ」親子アートクラブの4月から1年間の活動内容は、「アートクラブリーフレット」でご案内します。3月から美術館に設置しますので、是非ご覧ください。

※内容は都合により変更する場合があります。



世界最大の翼竜「ケツァルコアトルス」イメージ

【長崎歴史文化博物館】こどものひろば

★こんどのおやすみは、歴史に遊びにいこう！
★「長崎歴史文化博物館」だよ。
★「あ、奉行所があるところ」博物館って勉強するところじゃないの？
★昔の遊びを教えてもらったよ。博物館の探検もしたんだ！
★うん。約束！



対象 小学生(1～6年)
定員 30名
日時 5月～10月(全8回)
第2・4土曜日
10:00～12:30

「鑑賞活動」では、美術館にやってくる展覧会で本物の作品をみながら、美術館スタッフやお友達と、自由に意見交換をしていきます。

「表現活動」では、簡単な工作に始まり、鑑賞した展覧会の内容に応じて、写真や陶芸、版画、絵画、立体など、様々なジャンルの制作に取り組みます。後半では、その集大成として「長崎くんち」にちなんだ大型作品を共同制作します。制作してきた作品は全て、美術館エントランスやアトリエで一般公開するとともに、鑑賞会で振り返ります。

学校や家庭とは違う環境で、新しく出会ったお友達と一緒にのびのびと活動してみませんか？

「鑑賞活動」では、美術館にやってくる展覧会で本物の作品をみながら、美術館スタッフやお友達と、自由に意見交換をしていきます。

「鑑賞活動」では、美術館にやってくる展覧会で本物の作品をみながら、美術館スタッフやお友達と、自由に意見交換をしていきます。

「表現活動」では、簡単な工作に始まり、鑑賞した展覧会の内容に応じて、写真や陶芸、版画、絵画、立体など、様々なジャンルの制作に取り組みます。後半では、その集大成として「長崎くんち」にちなんだ大型作品を共同制作します。制作してきた作品は全て、美術館エントランスやアトリエで一般公開するとともに、鑑賞会で振り返ります。

学校や家庭とは違う環境で、新しく出会ったお友達と一緒にのびのびと活動してみませんか？

「鑑賞活動」では、美術館にやってくる展覧会で本物の作品をみながら、美術館スタッフやお友達と、自由に意見交換をしていきます。

「表現活動」では、簡単な工作に始まり、鑑賞した展覧会の内容に応じて、写真や陶芸、版画、絵画、立体など、様々なジャンルの制作に取り組みます。後半では、その集大成として「長崎くんち」にちなんだ大型作品を共同制作します。制作してきた作品は全て、美術館エントランスやアトリエで一般公開するとともに、鑑賞会で振り返ります。

学校や家庭とは違う環境で、新しく出会ったお友達と一緒にのびのびと活動してみませんか？

「鑑賞活動」では、美術館にやってくる展覧会で本物の作品をみながら、美術館スタッフやお友達と、自由に意見交換をしていきます。

「表現活動」では、簡単な工作に始まり、鑑賞した展覧会の内容に応じて、写真や陶芸、版画、絵画、立体など、様々なジャンルの制作に取り組みます。後半では、その集大成として「長崎くんち」にちなんだ大型作品を共同制作します。制作してきた作品は全て、美術館エントランスやアトリエで一般公開するとともに、鑑賞会で振り返ります。

日本近代洋画への道

—山岡コレクションを中心に—

会期：1月4日(金)～2月20日(水)
※会期中休館日：1月15日(火)・1月28日(月)
2月12日(火)

観覧料：一般1000円 大学生・70歳以上800円 高校生600円
※中学生以下無料
夜の割引鑑賞券：500円(17時以降の当日券購入)

日本洋画の優れたコレクションである「山岡コレクション」。ヤンマーの創業者である山岡孫吉が蒐集し、長い間、一部の研究者のみが知る幻のコレクションでしたが、近年、一般公開が始まりました。本展では、明治から大正にかけて活躍した著名な画家たちによる初期洋画の秀作約170点を展示。高橋由一から黒田清輝、青木繁までの作品を紹介します。



高橋由一「鯛図」

黒澤明 絵コンテの世界

会期：2月29日(金)～3月30日(日)

※会期中休館日：3月10日(月)、3月24日(月)
観覧料：一般1000円 大学生・70歳以上800円 高校生700円
※中学生以下無料

世界中の映画人に多大な影響を与えた映画監督・黒澤明は、優れた画才の持ち主でもありました。本展は、残された約2000点の絵コンテの中から厳選した作品を展示。巨匠・黒澤の創作の秘密に迫ります。



©Kurosawa Production Inc. Licensed exclusively by Horipro Inc.
黒澤明「夢・飛ぶ」(未映画化) 「私の影に呼ばれる私」

世界最大の翼竜展

恐竜時代の空の支配者

会期：12月21日(金)～2008年2月24日(日)
※会期中休館日：1月15日(火)
観覧料：大人1000円 高校生800円 小中学生500円

空飛ぶ爬虫類であり、謎に包まれた「恐竜時代の空の支配者」である翼竜を本格的に紹介する日本初の展覧会。世界最大の翼竜「ケツァルコアトルス(翼開長約10m)」の全身復元骨格などを展示するほか、近年、中国の遼寧省で発掘されて話題になった貴重な翼竜化石の数々も世界初公開されます。



ケツァルコアトルス展示イメージ

日蘭修好150周年記念特別展

「屏風—将軍からの贈り物—」展

会期：3月5日(水)～3月31日(月)
※会期中休館日：3月18日(火)
観覧料：800円(予定)

幕末期に創設された長崎海軍伝習所。オランダから練習船として観光丸(スームピング号)が江戸幕府に献上され、幕府は返礼として狩野派など幕府御用絵師に描かせた屏風10双をオランダ国王に贈りました。本展では、この「贈蘭屏風」を長崎で初めて里帰り展示します。絢爛豪華な屏風の中に、日蘭友好の歴史と当時の最高水準の絵師の息吹を感じてください。



「賀茂競馬図屏風」(一部) オランダ・ライデン国立民族学博物館蔵

五島の教会展

会期：3月5日(水)～3月31日(月)

五島列島の教会をテーマに、東西の建築文化が融合した教会建築や、ステンドグラスなどに描かれた特色ある内部装飾、さらには世界遺産候補「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」にも含まれている美しい教会風景の写真パネルを展示し、人々が教会にこめた思いや五島キリシタンの歴史について紹介します。



長崎歴史文化博物館
Nagasaki Museum of History and Culture

お問い合わせ
長崎歴史文化博物館
長崎市立山1-1-1 TEL.095-818-8366
http://www.nmhc.jp

第36回長崎県新人演奏会 “公開オーディション”のお知らせ

平成20年3月13・14日、とぎつカナリーホールでオーディションを開催します。観覧無料です。

若い演奏家たちのフレッシュな演奏をお楽しみ下さい。

■日時／平成20年3月13日(木)・14日(金)

■会場／とぎつカナリーホール

西彼杵郡時津町野田郷62

TEL(095)882-0003

■部門／声楽・ピアノ・管楽器・弦楽器・ギター

■入場料／無料



第35回新人演奏会グランプリを受賞した田中南美さん(クラリネット)

問合先／長崎県文化団体協議会 TEL(095)822-6049

主催／長崎県文化団体協議会

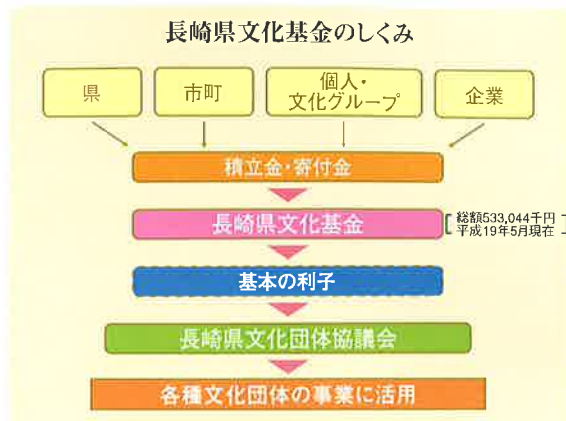
共催／長崎県・長崎市・時津町

後援／マスコミ各社

長崎県
文化団体
協議会とは？

「長崎県内における芸術文化団体相互の連絡協調を図り、文化活動を促進して県民文化の向上を期する」ことを目的に昭和38年発足。現在98団体が加盟しています。会長は金子原二郎長崎県知事。

文化基金へご協力下さい



■長崎県文化基金は…

- 本県の芸術文化の振興と普及を図るために昭和51年に長崎県が創設し、運用しています。
- 県、市町、企業のほか、文化団体や個人の寄附により、その金額は5億円を超えています。
- 基本の利子は長崎県文化団体協議会を通じて、各種文化団体の事業に活用されています。

■県文化基金への寄附は税制上の優遇措置があります。

●個人の場合

国税については寄附された金額、又は所得金額の30%のいずれか少ない金額より5千円を差し引いた額が所得控除の対象となります。県・市町民税については控除はありません。

●法人の場合

国・県・市町民税については寄附された金額の全額が損金算入されます。



シギスヴァルト・クイケン

今井信子

榎本大進

神尾真由子

豊嶋泰嗣

アルカスとヴァイオリン

アルカスSASEBOでは、2002年から豊嶋泰嗣さんから第一線で活躍する演奏家を講師に迎えた「ヴァイオリンセミナー」を行っており、皆さんご存知ですか？室内楽、特に弦楽器の響きにぴったりのアルカス中ホールの特性を活かし、広く県民の皆様に鑑賞の機会を提供するとともに、ホールを利用する弦楽器奏者を育て、弦楽器ならアルカス！と言われるホールを目指して取り組んでおります。

豊嶋さんのヴァイオリンセミナー

も今年で6年目を迎え、受講生の中からはOMURA室内合奏団のコンサートマスター中西弾さんなど九州で活躍する演奏家から現在アメリカ留学中の方まで、次代を担う若手ヴァイオリニストが次々と育っています。今年度アルカスでは、「ながさき音楽祭」の一環として県内の小中学生を対象とした「ジュニアヴァイオリンセミナー」も新たにスタートさせ、さらに弦楽器に親しむことが少ない地方の弱点を克服すべく、育成に力を入れた取り組みを行っており

にも積極的に取り組みさらに磨きのかかった榎本さんのヴァイオリンに期待が高まります。

そして、来年度はと言えば、古楽器奏者として世界的に名高いシギスヴァルト・クイケンが率いる古楽器アンサンブル「ラ・プティット・バンド」、2007年6月、日本人として二人目のチャイコフスキー国際コンクールで銅メダルを獲得した神尾真由子、日蘭交流400年の2000年、長崎市で開催された「出島音楽祭」の室内楽

公演に出演したヴィオラの今井信子、ピアノの田崎悦子、フルートの高橋真知子が結成したアンサンブル「トリオ・ソリスト」が結成して、古楽器のやさしい音色で奏でるヴァイオリンの「四季」、新進気鋭のヴァイオリニストによるリサイタル、ソリストとしてまた教育者として世界的に活躍する三人が古典から現代までの楽曲を演奏とお話でつづるオリジナル企画と中ホールならではの内容をお届けします。特に、ヴァイオリン奏者として世界的に名高い今井信子が今回はヴァイオリンも演奏する！というアルカスならではの（びっくり）！も登場する予定ですのでご期待ください。

弦楽器、特にヴァイオリンにこだわり、様々な企画を展開しているアルカスSASEBO。これからも皆様の温かいご支援とご注目をお願いいたします。

アルカスSASEBO

〒857-0863
長崎県佐世保市三浦町2-3
TEL. 0956(42)1111

編集後記

Editor's Postscript

○昨年は「ながさき音楽祭」という新種の芽生えを見ることができた年でした。スポットライトの1人となれようか、と不安でいっぱい参加でしたが、今振り返れば台風にもめげずに育っていく新芽にいつしか勇気をもらったような気がします。今年は「どんな華が咲くのか」と皆の期待が集まるような、さらに成長したながさき音楽祭を育てたいと思います。(柏)

○音楽祭30のイベントはどれも印象に残っている。笑っぱなしだった南島老人ホームのボエ。子どもたちの笑顔に包まれた潮騒の樺島。酒蔵もお寺もみんな良かった。教会で聴くアヴェマリアには涙が止まらなかった。ブラムスから美空ひばりまで、音楽には人を癒す力がある、国境を越える普遍性がある。(江口)

69 文協
BUNKYO
Cultural Information of Nagasaki

第69号(2008)平成20年 1月発行

発行／長崎県文化団体協議会

住所／〒850-8570 長崎市江戸町2番13号

長崎県文化・スポーツ振興部 文化振興課内

TEL／(095)822-6049

FAX／(095)829-2336

編集／長崎県文化団体協議会事務局

印刷／株式会社 昭和堂

